

平成27年度行政評価シート【個表】

平成 27 年 6 月 25 日

評価対象事業		評価者	市民活動部観光商工課担当課長	小澤 圭介
市民-17 観光協会支援事業		<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務 <input type="checkbox"/> 法定受託事務	主管課 観光商工課	関連課 _____
総合計画上の位置付け	分野	観光	施策の方針	地域が一体となった観光振興の推進

1 事業の目的		2 平成26年度に実施した事業の概要		
対象	鎌倉市観光協会・観光客等	鎌倉市観光協会の運営や鎌倉まつり、薪能等の実施事業に対する支援を行い、鎌倉の観光振興の充実を図った。		
意図	様々な観光主体のネットワークの中心となり、観光宣伝と観光客誘致を行う鎌倉市観光協会を支援するため			
効果	観光客にとっては、観光目的を達することによる満足感の高揚が図られ、市にとっては、産業振興、雇用確保などの経済的波及効果や地域の活性化につながる			

3 事業費等基礎データ					
データ区分	27年度当初予算	データ区分	26年度決算	備考	
	人口	177,243人	人口	177,464人	・各年3月31日 (住民基本台帳)
世帯数	80,676世帯	世帯数	80,368世帯		
運営資源状況	事業の対象者数		事業の対象者数		
	当初予算(千円)	42,918	決算値(千円)	42,324	
	国県支出金		国県支出金		
	地方債		地方債		
	その他		その他		
	一般財源	42,918	一般財源	42,324	
事業経費運営	人員配置数	0.1	人員配置数	0.1	
	人件費(千円)	815	人件費(千円)	764	
	総事業費(千円)	43,733	総事業費(千円)	43,088	
	市民1人当りの経費(円)	247	市民1人当りの経費(円)	243	
	対象者1人当りの経費(円)		対象者1人当りの経費(円)		

4 評価結果 ※「効率性」「妥当性」「有効性」「公平性」「協働」については、プルダウンで選択。

平成26年度事業実施にあたっての課題	自主財源の確保及び着地型観光事業の展開。		
課題解決のために行った平成26年度の取組	自主財源確保策に関する情報提供を行い、事業の展開を促した結果、収入確保に寄与する新たな事業(荷物預り)が開始された。	<input type="checkbox"/> 解決 <input checked="" type="checkbox"/> 一部解決 <input type="checkbox"/> 未解決	
未解決の課題 新たな課題	さらなる自主財源確保に向け、新規事業の展開の検討を継続する。 着地型観光事業については、平成25年度に鎌倉プレミアムツアーを企画、実施して以降、主だった取組がないため、引き続き実施を促していく。 鎌倉の観光全般のホスピタリティ向上について、観光協会が担うべき役割を整理していく。		
効率性	事業費に削減余地はないか	1. ある	
	関連・類似事業との統合はできないか	3. 統合できない	
妥当性	事業の実施に対する市民ニーズはあるか	3. 変わらずにある	
	事業の廃止・休止による市民生活への影響は大きいのか	3. 廃止・休止による影響は大きくある	
有効性	事業の成果は得られているか	2. 成果は概ね出ているが、更なる努力は必要である	
	事業の上位施策に向けた貢献度は大きいのか	3. 事業の方向性や手法は概ね適切であり、一定程度貢献している	
公平性	受益者負担は公正・公平か	△.負担未導入 △-2. 受益者はいるが、今後も公費により全額市が負担すべきものである	
	協働	市民等と協働して事業を展開しているか △.協働未実施 協働実施済の場合のパートナー	
事業内容の方向性	<input type="checkbox"/> a: 事業内容を見直す ⇒ <input checked="" type="checkbox"/> b: 事業内容は現状通りとする <input type="checkbox"/> c: 事業を休止又は廃止する <input type="checkbox"/> d: 他事業と統合し、本事業は廃止する ⇒	見直し類の <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> その他	見直し類の
	<input type="checkbox"/> A: 予算規模を拡大する <input checked="" type="checkbox"/> B: 予算規模は現状維持とする <input type="checkbox"/> C: 予算規模を縮小する	事業内容・予算規模の方向性設定の理由	自主財源確保に向けた努力は行っているものの、観光協会の財政基盤を支えるまでには至っておらず、また2020年の東京オリンピック・パラリンピックに向け、外国人観光客の増加を含めた多方面に渡る事業展開が求められる可能性があることから、予算規模は現状維持とし、必要に応じ拡大の方向性も検討していく。
総評	今後増加が見込まれる外国人観光客を含め、多くの観光客が訪れる鎌倉の観光施策の中核を担う組織として、観光協会に対し財政面をはじめ様々な支援、連携を行っていく必要がある。		

○ 他市比較・ベンチマーク(県内外自治体や民間団体との比較値)

比較事項	入込観光客数等(平成25年) (単位:千人・千円)								
団体名	鎌倉市	藤沢市	茅ヶ崎市	平塚市	小田原市	横須賀市	葉山町	逗子市	三浦市
延観光客数	23,083	15,524	2,661	7,041	4,650	7,629	581	994	5,388
宿泊者数	340	431	71	77	248	324	31	21	685
宿泊率	1.5%	2.8%	2.7%	1.1%	5.3%	4.2%	5.3%	2.1%	12.7%

比較事項									
団体名	横浜市								
延観光客数	45,659								
宿泊者数	6,120								
宿泊率	13.4%								

比較事項									
団体名	鎌倉市								
他市実績									

当該事業実施に伴う他市比較に関する考え方
 市が抱える観光施策の課題の一つである混雑緩和に向け、観光客の訪問時期や時間の分散化については、宿泊率の向上を含めた滞在時間の長期化が有効な解決手法の一つとして考えらる。県内全市町村対象に行う入込観光客数調査において、鎌倉市は横浜市に次ぐ延観光客数を誇るものの、一方で宿泊者数や宿泊率については、近隣市町と比べ低水準であることから、着地型観光の推進を含め、観光施策の中核を担う観光協会への継続的な支援が必要である。
 なお、近隣市で観光客数が1,000万人を超えている藤沢市では、観光協会の運営費補助金として年間約6,180万円(H25実績)を要している。

◎ 事業実施に係る指標

指標の内容	入込観光客数調査における宿泊者数						単位	万人	指標の傾向	⇒	備考
当該指標を設定した理由	年次	H26	H27	H28	H29	H30	H31				平成28年度以降は、次期観光基本計画の数値目標に従う。
当該事業の実施に伴い、市の観光施策の課題解決を図るため。	目標値	40	40	-	-	-	-				
	実績値	集計中	-	-	-	-	-				
	達成率										

指標の内容							単位		指標の傾向		備考
当該指標を設定した理由	年次	H26	H27	H28	H29	H30	H31				
	目標値										
	実績値										
	達成率										

指標の内容							単位		指標の傾向		備考
当該指標を設定した理由	年次	H26	H27	H28	H29	H30	H31				
	目標値										
	実績値										
	達成率										

指標の内容							単位		指標の傾向		備考
当該指標を設定した理由	年次	H26	H27	H28	H29	H30	H31				
	目標値										
	実績値										
	達成率										

指標の内容							単位		指標の傾向		備考
当該指標を設定した理由	年次	H26	H27	H28	H29	H30	H31				
	目標値										
	実績値										
	達成率										

当該事業実施に伴う指標の推移に関する考え方

● 事業に関する特記事項

<input type="checkbox"/> 第3期基本計画前期実施計画重点事業	<input type="checkbox"/> 19節で予算措置している補助金が含まれる事業
--	---